

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 桜井交通(株)	運行系統名 ・愛本本線 運行区間 ・愛本新下区公民館～イラッセ ・通勤ターによる定時定路線運行 ・平日のみ運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・事業者と意見交換を実施し、利用者の増加に向けた課題の整理や、課題の解決に向けた取組について検討を行っている。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：2,793人 令和4年度：2,790人 (令和元年度：2,869人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は目標値をほぼ確保することができた。 ・今後はワークショップ(実務担当者間での検討会議)におけるバス路線見直しの方向性をもとに、利用者数増加に向けた取組を行う。 ・また、動態調査を実施することにより、利用者ニーズの把握に努める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 桜井交通(株)	運行系統名 ・石田三日市線 運行区間 ・にいかわ総合支援学校～黒部市役所 ・黒部市役所～黒部市役所 ・通勤ターによる定時定路線型運行 ・平日のみ運行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果にもあったように、利用者数が減少している状況を鑑みて、運行事業者間でのワークショップを実施し、利用者数増加に向けた取組だけでなく、バス路線見直しや運行手法の変更等の持続可能な運行に向けた取組について検討を行っている。 ・また、事業者とは意見交換を実施し、具体的なバス停配置、ブランディング等、集客力向上に向けて検討した。 	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：5,913人 令和4年度：8,304人 (令和元年度：8,317人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は大幅に増加しており、ほぼコロナ禍前の数に戻っている。 ・今後はワークショップ(実務担当者間での検討会議)におけるバス路線見直しの方向性をもとに、利用者数増加に向けた取組を行う。 ・また、石田三日市線経路に開業した大型商業施設や道の駅に合わせ、新規利用者の確保を図るため、地元住民とも協議の上ルート変更等の検討を行う。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 くらべ交通(株)	運行系統名 ・田家野ー中山エリア 運行区間 ・田家地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：583人 令和4年度：542人 (令和元年度：546人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も若干減少している。 ・このため、動態調査を実施して利用者ニーズの把握に努めるほか、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加のための取組を進める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 くらべ交通(株)	運行系統名 前沢－宮野エリア 運行区間 ・前沢地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：1,009人 令和4年度：824人 (令和元年度：716人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も減少している。 ・なお、当該系統の利用者数の減少は、地区内での商業施設開業に影響を受けていると考えられる。 ・このため、動態調査を実施して利用者ニーズの把握に努めるほか、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加のための取組を進める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 くらべ交通(株)	運行系統名 ・村椿・大布施地区 運行区間 ・村椿・大布施地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：789人 令和4年度：869人 (令和元年度：1,028人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は増加している。 ・引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により、持続可能な運行形態について検討を進めるほか、動態調査を実施し利用者ニーズの把握に努め、利用促進策のより一層強化を図る。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名：黒部市公共交通戦略推進協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 くるべ交通(株)	運行系統名 ・荻生地区 運行区間 ・荻生地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。 	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：421人 令和4年度：501人 (令和元年度：474人) (2)公共交通利用圏域内町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は増加している。 ・引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加を持続するための取組を進めるほか、動態調査を実施し利用者ニーズの把握に努める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。